



明峰

令和7年12月19日

第20号

校長 岡野利男



～ 2学期の校長室黑板 その① ～

～ 日本国憲法 13条と14条 ～

13条 すべて国民は個人として尊重される。……
14条 すべて国民は法の下に平等であつて、……
是非2つの条文を讀みしることができよう。挑戦してほしい。
人権尊重の基盤は、知識と態度と感受性。
その知識の根拠となる2つの条文を携えることも求める。

～ 2学期をすすむ ～

誰かの真面目さを、ひたむきさを、一生懸命を。
嘲笑することも揶揄することもなく
生徒一人一人が、生徒一人一人を大切に。
「生徒同士の相互承認」
明峰中が2学期をすすむうえでの道標です。

～ 集団の中で ～

2学期に進む上での組織が決まり、自分自身の
仕事担うべき役目も固まった。
仕事から人をつくる。立場は人を変える
つくられ、変えられた個人の集合が新たな環境になる。
仲間や、集団の中で、なくてはならない人になる。

～ 勇気とは ～

恐れや不安があっても、自分が正しいと思う言動と
とるこじができる心のありよう。それを勇気という。
腕力の強さ、運動能力の高さを指すのではない。
たとえば、誰一人取り組むとしない中において、黙々と
清掃活動に取り組み、それが勇気。

先週及び今週の校長室前黑板です。
憲法13条と14条の暗唱への挑戦。本日
までに75名の生徒諸君が「認定書」を取
得しました。本来は先週だけの黑板にする
つもりでしたが、先週の合格者は15名…。
そこで急遽2週連続の内容にした次第です。
暗唱テストは年度末まで受け付けます。御
家庭でも励ましの程よろしく願います。

それでは、今号は、**2学期中の校長室
前黑板**で、2学期を振り返ります。

9月1日(月)～の週 **2学期をすすむ**

以前の学校だよりにおいても紹介したと
おりです。2学期の明峰中学校のテーマは
「生徒同士の相互承認」でした。先の憲法
13条の【個人として尊重される】と意を同じ
くするものです。生徒一人一人が、生徒一人
一人を大切にする2学期であってほしいとの
願いを込めたものでした。

9月8日(月)～の週 **集団の中で**

学級における係決めが前週で終わった
ことから、このメッセージにしました。
昔から先輩に言われ続けてきたことです。
「環境が人を変える。」
「仕事が人をつくっていく」

3学期も当然ながら、新たな挑戦への機
会がたくさんあります。新しい自分に出会い
に行くことに挑戦してほしいものです。

9月16日(火)～の週 **勇気とは**

以前、テレビ番組で誰かが話していたこ
とを参考にしてみました。ともすれば、子供た
ちは、腕っぷしが強かったり、スポーツで優
秀な成績を収めた人のことを【**勇気ある人**】
と捉えがちですが、そこは違いますよね。

なんとなく学校全体が落ち着かない雰囲気
の中、子供たちに問うてみたい気持ちで書
いた黑板です。

～秋を探す～

秋分。文字どおり「秋」を分ける＝秋の真ん中。
待っていても感じられない「秋」ならば、探りに行く。
早秋暮れ、心洗う虫の声、はつきりと見えるオリオン。
夏の次はいつか冬。そう言われる近年だけど、
四季ある国に生まれながら、秋を探りに行く。

9月22日(月)～の週

秋を探す

秋分の日が23日(火)であったことから、「秋を分ける」にこだわって、このメッセージとしたところです。探しに行かないとなかなか秋を感じられないようなこの数年の状況ですが、澄んだ虫の声も、明け方の高く昇ったオリオン座も気持ちのよいものですね。長かった夏がようやく終わりに向かいました。

～品位を保つ～

言葉遣い、身なり、姿勢に美しさを。
腹が立った時も感情のコントロールができる。
今、すべての明峰中生に問いたい。
あなたの言動は、品位が保たれているものであるか。
中学生としての品位に甘えてはいないか。

9月29日(月)～の週

品位を保つ

これもまた、生徒たちの言葉遣い、身なりに危機意識を感じてのメッセージです。特にイライラした状態を自分自身で落ち着かせることのできる力は、これから先、大人になっても、常に求められる力だと思います。「品位を保つ」常に意識したいことです。

～意味を掴む～

勉強然り、スポーツ然り、日常の全てに求めたい。
その学びは何のために、その練習はどこに何かうのか。
意味を感じて進む人であってほしい。
感じられないなら、掴めないのであれば、様々な頼み、
大切なあなたの人生と意味あるものにしてほしい。

10月6日(月)～の週

意味を掴む

私自身は、「これって何のために学ぶ必要があるのかな。この学びはどこにつながって行くのかな。」ということが分からないのが中学生にとって一番辛い事ではないかなと思っています。したがって、これは、生徒に求めると同時に、先生たちにも強く意識してほしいと思って記したことでした。

～響かせるもの～

金曜日の会場に響かせるもの。
聴いている人に届けるもの。
歌声に乗せて、何と響かせ届けるか。
思いを込めて、発信するにふさわしい。明峰の子の
次なるステージを彩っています。

10月14日(火)～の週

響かせるもの

17日(金)の合唱コンクールに際して書いたメッセージです。どの学年も立派な歌声と表現しようとする姿勢でしたが、やはり3年生の姿は実に見事であり、感極まりました。合唱コンクールでいつも思うのは、歌っている時にはいつも一緒だった仲間の顔は見れないということ。響かせるものはおのずと分かってくるはずです。

～令和七年度折り返し地点の通過～

収穫の季節「秋」。様々な作物が実り、売ら。
だから通い(おきない)と読む...という読み。
たゞ、真実とは違う言葉遣いであっても、
自然の働きと人々の営みの調和のように、趣深い。
そんな秋に、心まで随分、心から見据える。

10月20日(月)～の週

令和七年度折り返し地点の通過

若い頃に聞いたことがあるのです。「商い」を「商い」と読ませるのはさまざまなものが収穫され売れるからだとか...

黒板に残すに当たり、なんとなく気になって調べたところ、それは言葉遊び的なことであり、正しくないとのことでした...。それでは、折り返し地点まで来たところで、その②は来週に。